構文文法の射程

鍋　島　弘治朗

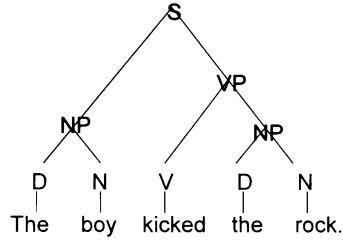
1. はじめに

構文文法は，実際に使用される無数の構文パターンの集合として文法を規定する認知言語学の主要な文法観である。機械翻訳の分野の example-based 翻訳，会話分析の分野ではフォーミュラー言語という考え方に類似した文法観である。この文法は，文法を高次で限定された数のスキーマ的構造の組み合わせとして定義する従来の文法観（初期の句構造文法，生成文法など）に対立する形で発展してきた。本稿では構文文法の全体像を素描する。構文文法と文法論を一般的に論じることは本書の射程を大幅に超えるので，詳細は Fillmore et al. (1988)，フィルモア(1989)，Goldberg(1995)，Croft(2001)，Murao(2009)，鍋島(2003) などをご覧いただきたい。

2. 従来の文法観

従来の文法観（初期の句構造文法，生成文法など）では，文法を高次のスキーマとして取り扱う。その基礎的な形は，(1) の文とその構造分析を示した樹形図，図 1 である。

(1) a. The boy kicked the rock.



D: Determiner 限定詞（冠詞等）　N: Noun 名詞　V: Verb 動詞　S: Sentence 文　NP: 名詞句　VP: 動詞句

図 1 *The boy kicked the rock* の樹形図

図 1 では，単語が冠詞や名詞，動詞といったカテゴリーに分類されている。これは，単語を非常に少数のグループに分類することであり，この時点で，取り扱う対象は，何十万という莫大な単語の数から 10 あまりの少数の統語範疇（統語カテゴリー）に大幅に減る。なお，統語範疇とは学校文法でいう品詞のことであるから，本論では品詞と呼ぶことにする。

さて，これら品詞の組み合わせには制限がある。例えば，形容詞や冠詞は動詞にはつかない，副詞は名詞には付かない，冠詞は名詞の前にくる，などである。可能な組み合わせをルールと考え，統語規則と呼ぶ。図 1 の単純なツリーを生成するために必要なルールは，(2) の通りである。

(2) a. S　→ NP + VP
　　b. NP → D　+ N
　　c. VP → V　+ NP

(2a) は，S（文章）は名詞句と動詞句から（その順序で）成り立つことを示している。同様に (2b)

は，名詞句は限定詞（ここでは冠詞）と名詞から（その順序で）成り立つこと，(2c) は，動詞句は動詞と名詞句から（その順序で）成り立つことを示している。「成り立つ」というのは「構成される」あるいは「(それらに）展開する」と考えてもよい。これらの規則を組み合わせてできる樹形図が図 1 である。ルールが増えればその組み合わせから産出される文のパターンも級数的に増え，再帰的ルール（右側に左側と同じものが含まれるルール）があれば，産出される文の数は無限になる。このようにして非常に限定された数の品詞と統語規則があれば，無限の文（樹形図，すなわち統語構造）が可能になるというのがこの種の文法の根幹である。

3. 構文文法

第 2 節の句構造を使えば，確かに無限の文章が産出できることになるが，実際の発話にはこのような高次のスキーマのみを使用しては産出できないような類いの文章も数多く存在する。例えば，(3) を見てみよう。

(3) a. The more beer you drink, the fatter you get.（ビールを飲めば飲むほど太ります）
b. The faster we run, the sooner we'll get home.（速く走れば走るほど速く家に着く）
c. The more, the merrier.（参加者が多ければ多いほど楽しい）

(3) は，すべて The＋比較級（＋文），the＋比較級（＋文）という構造を持っている。その点で，なんらかの統語パターンであると考えられる。しかし，このパターンは，主に次の 3 つの点が統語の観点から不規則である。まず，第 1 に形容詞（副詞）の比較級に the が付いていること。通常，形容詞には the が付かないし，最上級ならまだしも，比較級に the がつくことは非常に稀である。第 2 に，接続詞が存在しないこと。(3a), (3b) のパターンを見ると，前半と後半に主語と動詞が存在し，二つの文から構成されているように見えるが，これらの二つの文を結ぶ *and, but, although* といった接続詞が存在しない。最後に，これらの 2 つの点に隠れてわかりにくいが，*the more* や *the fatter* といった比較級の形容詞（副詞）は，*(If) you drink more beer, you get fatter.* というように本来，主語と動詞より後ろの位置にくるのが通常の用法だと考えられる。その意味でこれらはある種の倒置になっている。統語パターンの特殊性が明らかになったので，(3) を一般的に *the more* 構文と呼ぶことにしよう。

the more 構文は，上述の 3 つの特殊性をそれぞれ一般化してルールの集合に還元することも不可能ではないだろう。しかし，このようなルールが出現する条件は非常に限られており，過剰一般化になる恐れがある。さらに，これらの形式的特殊性は意味の特殊性と連動していることに留意する必要がある。*the more* 構文は比例構文とも呼ばれ，前半で表される内容と後半で表される内容が比例関係にあることが示唆されている。例えば，(3a) であれば，飲んだビールの量と体重の増加が (3b) では走るスピードと家に着く早さが，(3c) では参加者の人数と楽しさが単調増加関係にあることが含意される。これは，それぞれの文の部分からだけでは予測できない意味である。これらの特殊な形式的パターンの組み合わせが，このような特殊な意味的パターンと対になった形で構文が成立しているといえる。これはある意味で，いわゆるアイコニィシティ（類像性）を有している。前文と後文が同じ構造を持つという特殊な形式が前文で表される量と構文で表される量の比例関係という特殊な意味を表現しているからである。

さて，(3) の日本語訳を見ればわかるように，［(述語）れば（述語）ほど］もひとつの構文を形成しているといえる。次に，日本語の構文の例として，これによく似た［(述語）ことは（述語）が］という形式をもった「することはするが」構文を，構文文法の創始者，チャールズ・フィルモアの研究から紹介する。フィルモア（1989）は (4) のような例を挙げている。

(4) a. 今晩のパーティに行くことは行きますが少し遅れると思います。
　b. この本を読んだことは読んだんですが，あまりよくわかりませんでした。
　c. バークレーのキャンパスは綺麗なことは綺麗なんですが，少し狭いです。
　d. スタンフォードのキャンパスは広いことは広いんですが，少し殺風景です。

これらの文章は，すべて［(述語）ことは（述語）が］という特殊な統語構造を持っている。「行くことは行く」は反復的であり，通常の「は」の用法からは予測が付かない。さらに (4) は特殊な意味構造を持っている。その意味構造の説明をフィルモア自身の言及から引用しよう。

> 左の項で表される文の真実性を認めながらも，その文から相手が当然期待すると考えられることを同時に打ち消している。...（中略）... A という述語から相手が期待することを最低限に止めさせる機能があり，さらに右の項では，具体的にどんな推意が打ち消されるかが明確にされている。　フィルモア(1989)

つまり，「行く」と言い切るのと比較して，「行くことは行く」という表現は，行く行為から当然予測されるような数々の推論を事前に保留している。フィルモアはさらに，「この繰り返し構文はフォーマル・グラマーでは処理しきれない問題を提示しています。」と述べる。どこが問題なのか。フォーマル・グラマー，つまり，形式のみを取り扱う文法や統語理論では，形式的特徴と意味論的または語用論的な推意が結びつけられない。つまり，汎用的な文法規則では明らかに記述できない［(述語）ことは～（述語)］という特殊性を有する点で文法を記号列の操作と考える従来の文法理論では取り扱いにくい。のみならず，このような枠組みでは，ここで生じてくる談話の推意は語られる余地もない。

(5) A：昨日あげたお菓子食べた？
　B：食べたことは食べました。

(5) の会話では，B が A にもらったお菓子を口にしたことは事実であるが，おなかがいっぱいだったので食べきれなかったとか，美味しくなかったので少ししか食べなかったとか，賞味期限切れだったので，食べたあと吐いたとか，何らかの形で非典型的だったことが示唆される。これは形式のみを取り扱う文法では取り扱えない。さらに，特殊な形式が特殊な意味を表すという形式と意味の関連性に言及する素地もない。こういった意味で，構文文法は従来の文法の足らない部分を補うのみならず，まったく新しい前提に立って既存の文法現象を見直す契機を提供しているのである。

構文は，メタファーとも関連する。タウブは＜状態は場所・変化は移動＞メタファーの用例の中で，(6) の例文を挙げている。

(6) a. He <u>went</u> <u>from</u> fat <u>to</u> <u>slim</u> in a matter of weeks.（彼は太った（状態）から痩せた（状態）へ数週間で変化した）　(Taub, 1996:450)

(6) では太った状態からやせた状態への変化が，移動のように捉えられている。注目したいのは，その結果，文法構造が特殊化していることである。(4) では，*from* や *to* という前置詞の後ろに，*fat* や *slim* という形容詞が続いている。ご存じのように前置詞の後ろには基本的に名詞句が来る。形容詞は通常こないのである。梶田優が 2003 年の日本語文法学会の招待講演で取り上げた (7) も同様の構造を持っている。

(7) The man is far from innocent. （梶田, 2003）

これは，文法化現象の一例でもある。(8a) はそれぞれ，本来の *after* の意味から変化して，N *after* N というローカルなコロケーションに固着化した構造を持っている。また，(8b) では，*well* の「上手に」という意味が希薄化し，全体で，*and* と同義になっている。

(8) a. She smoked cigarette after cigarette.
b. Tom sang as well as played the piano. （梶田, 2003）

もちろん，構文文法にしても従来の文法を引き継いでいる部分もあり，構文の中でも一般化できる要素をできるだけ一般化して冗長性の少ないシステムにしていかなければならないのは事実である。しかし，一般的な要素を集約すればするほど，個別的な要素が際立ってくる。これが構文文法の必要性を示しているといえる。

4. イディオム構文

イディオムと構文の分類の先行研究としては，主にフィルモアら（Fillmore et al., 1988）が重要である。*let alone*（～はもとより）構文の記述の中でフィルモアらは，イディオム表現の類型としてコロケーションの種類を論じている。対象となる表現群をまず（9）に挙げる。

(9) a. a. kith and kin（親戚縁者）
b. might and main（全力を尽くして）
c. all of a sudden（突然）
d. in point of fact（実際のところ）
e. hang/tie one on（泥酔する）
f. pull someone's leg（からかう）
g. tickle the ivories（ピアノを弾く）

以下，4.1 から 4.3 で具体的な 4 種類の区分とその用例を挙げる。

4.1 変則的な語の変則的な配列

これは現代語では使用されなくなったような語がイディオムの中に入っている場合である。語が変則的なので，その語に適用できる配列のルールもないと考え，自動的に変則的な配列と呼ぶことになっている。

(10) a. kith and kin（親戚縁者）
b. might and main（全力を尽くして）

4.2 普通の語の変則的な配列

次のグループは，語自体は普通の語であるが，これらが，通常の品詞の配列規則に従わず，変則的な並びになっている例である。

(11) a. all of a sudden（突然）
b. in point of fact（実際のところ）

(11a) では *sudden* という形容詞に *a* という冠詞がついている点が変則的である。(11b) では，*point* や *fact* が無冠詞で使用さている点が変則的である。

4.3 普通の語の普通の配列

(12) は，通常の語が通常の配列をされている。しかし，句全体で構成的意味を超えた意味に変化している点で，イディオムといえる。

(12) a. hang/tie one on（泥酔する）
b. pull someone's leg（からかう）
c. tickle the ivories（ピアノを弾く）

これらに通常の統語（*The boy kicked the rock.* のような例）を含めたクロフトら（Croft and Cruse, 2004）のまとめから，図表化する。

表 1 フィルモアらによるコロケーションの分類

	語彙	統語	意味	用例
変則的な語の変則的な配置	変則的	変則的	変則的	*kith and kin*
普通の語の変則的な配置	普通	変則的	変則的	*all of a sudden*
普通の語の普通の配置	普通	普通	変則的	*pull someone's leg*
通常の統語表現	普通	普通	普通	*in the garden*

（Croft and Cruse, 2004:236，一部改変）

5. 複合語とコロケーション

一般に，複数の語が組み合わされた形で特定の意味を持つのは複合語である。

(13) a. out of　b. in front of　c. easy-to-wash (dishes)

ただ，複合語とイディオムやコロケーションとの違いは思いのほか明らかではない。たとえば，日本語表現 (14) は，英語でいうと (15)，フランス語でいうと (16) になると思われるが，その分析可能性は大きく変わっている。形態素の意味を訳し，これをつなげるだけでは翻訳ができない。

(14) いたるところに
(15) everywhere（＊すべてのどこ）
(16) partout　（＊すべて　で）

また，(14) を (17) や (18) のように類義語で言い換えても意味をなさない。

(17) ＊到着するところに
(18) ＊いたる場所に

同様に，「先日」の意味で，(19) のようにいうが，「この」と「間」から英語でいう (20) の意味は合成的に出てこない。逆も然りである。

(19) この間
(20) the other day

これらの用例から，以下のような一般化を導出することができる。まず，第1に一般に数ある可能な言語表現の中で特定の表現のみが慣習的に使用される点である。第2に表現やフレーズを作成する自由は思いのほか限られているという点である。

6. スタイル構文

構文には特定の文体やジャンルで使用されるものもある。

(21) a. Once upon a time,　　b. むか〜し，むかし，あるところに
(22) a. Partly cloudy　　b. 晴れ，ときどき，曇り

(21) は物語の冒頭でしか登場しない構文であり，この構文がくれば，物語の始まりであることがわかる。(22) は天気予報の定型表現である。交通情報，通販のCM，海外ドラマの日本語声優の話し口，デパートのアナウンス，駅のアナウンス等々，様々な分野で特徴的な語彙，定型句，声質，イントネーション，統語などがあり，これらも構文と考えられる。こういった構文をスタイル構文と呼ぶことにする。

7. キャラ構文

発話が，特定の人物を想起させたり，特定の役割や人物像を連想させる場合もある。

(23) a. 原付最速の男とは俺のことよ！！！[1]
b.「知らざあ言って聞かせやしょう　浜の真砂と五右衛門が歌に残せし盗人の，種は尽きねえ七里ヶ浜，その白浪の夜働き，以前を言やあ江ノ島で，年季勤めの稚児が淵，百味講で散らす蒔き銭をあてに小皿の一文字，百が二百と賽銭の，くすね銭せえ段々に，悪事はのぼる上の宮，岩本院で講中の，枕捜しも度重なり，お手長講と札付きに，とうとう島を追い出され，それから若衆の美人局，ここやかしこの寺島で，小耳に聞いた爺さんの，似ぬ声色でこゆすりたかり名せえゆかりの弁天小僧菊之助たぁ俺がことだぁ！[2]」（歌舞伎『白波五人男』浜松屋の場）
c.「俺の名前を言うから，肝をつぶさねぇ用心と耳の穴かっぽじいてよく聞けよ。俺の名前を手のひらに書き，三度いただいてペロリとなめれば，ほこりが落ちる，熱病が治る，男の護り本尊，関八州の赤城山上州は西郷里国定村の住人，上州縄張り国定の大親分長岡忠治とは俺のこったぁ。よく面を見よ」（新国劇・新派，『国定忠治』[3]）
(24) a. 喧嘩上等！　　b. タイマン上等！　　c. リストラ上等！
(25) a. ぶっちゃけ，オレ，こんな掃き溜めに埋もれるつもりはないっすから…
b. まさか俺が振られるわけ？ぶっちゃけありえない
c. 12時台はもうかなりのテンパリぐあい ぶっちゃけ，何聞いてるのかさっぱりでした

(23) は，渡世者の世界とそのような外連味を感じさせる表現である。3つの発話は，［名前］とは俺の（／が）こと（よ・だ）］という形で，ひとつの構文形式を共有している。(24ab) は，［X上等］という形式で，「Xでも何でもやって（／受けて）やろうじゃないか」という心意気を表した暴走族などの用語である。(24c) はそのような心情をリストラというやや異なった場面にズラした使用例と考えられよう。(25) はは木村拓也がドラマ『グッドラック』で使用して以来，幅広く使

われるようになったが，キムタクを擬して，キムタク風な人生態度で使用されているように思える。

(26) 1週間のご無沙汰でした
(27) なんも言えねぇ
(28) 塀の中の懲りない面々
(29) 毎度おなじみ

(26) は昭和の高度成長期に定番番組だった「ロッテ歌のアルバム」という番組で，名司会者玉置(たまおき)宏が使用したフレーズで，一定の年齢以上の方にはその眼鏡の笑顔，口調とともに懐かしく思い出されるだろう。(27) は2008年，北島康介が北京オリンピックの100m平泳ぎで優勝したときの言葉で記憶に新しい。(28) は阿部穣治の刑務所ので経験を書いた本だが，「塀の中」はこの本で「刑務所」を意味する用法が一般化し，「懲りない」も「懲りない編集長」などの形で使用されている。(28) は書籍からであり，音声からでない点も特徴的である。(29) は第1次石油ショックのあった1973年，トイレットペーパーが品切れとなり世間がパニックになった反動から，新聞を取りレットペーパーに交換するというちり紙交換が一つのビジネスとなり，そのフレーズは「毎度おなじみちり紙交換車でございます」が定番であった。これは特定の人物を思い浮かべさせない点でスタイル構文との中間的な形態といえよう。このようなキャラ構文は，特定の人物を思い出させ，その人物の置かれた背景やその人物や背景の世界に自己を投影させる。このようなキャラ構文はまた，その一部を切り取ったり，変換したりして，新しい表現を形成するリソースとなる。

8. イントネーション構文

特定の文体やジャンルを表すスタイル構文には，特定のイントネーションを伴うモノの多い。例えば，(21b) の「むか～し，むかし」の部分には特有のリズムとイントネーションがある。さらに，「なんだ」のイントネーションも状況と意図によっていくつかのパターンに分かれる。

(30) 熱いけど熱くないものな～んだ
(31) A: 昨日のやつ，病院にいったらただの打撲だって。
　　B: な～んだ。心配して損した。
(32) 親に向かってハゲチャビンとはなんだ！

(30) はなぞなぞの「なんだ」で，「な」を伸ばして下がった後，最後を上げる。(31) の落胆や安堵の「なんだ」では，（場合によって「な」を伸ばして）上がった後，最後を下げる。(32) の叱責の「なんだ」では短く語気強く急激に下がる。それぞれ異なるイントネーションを持っており，そのイントネーションはかなり明確に規定されており，その意味や使用状況も極めて特定的である。このように，構文はイントネーションを伴って特定の意味や語用を持つことが多い。

9. ジェスチャー構文

Lakoff（1987）は，*there* 構文の分析の中で，(33) の例を挙げ，これが人差し指を上向きに指し，耳を上方に向けるというジェスチャーと一緒に用いられやすいことを指摘している。

(33) There's the bell now!　　(Lakoff, 1987:511)

このようにジェスチャーと共に用いられる構文をジェスチャー構文と呼びたい。このような用例

は単語レベルでいくつか見つかる。(34) に伴うジェスチャーは，成功したとき喜びを示す，映画『ホームアローン』などで有名なジェスチャーで，拳を握って腕を縦にして縦のまま下に力強く引く。(34) の場合は，おなじみの漫才のつっこみのジェスチャーで，手のひらをまっすぐにして，腕を水平にし，左手であれば左側に，右手であれば右側に肘から回転させて隣にいる人を手の甲で軽く叩く仕草である。

(34) Yes!
(35) なんでやねん！

このようにジェスチャーが特定の語や句と結びついている場合は少なくなかろう。(34) では，イントネーションも特定的になっている。ジェスチャーと構文の結びつきの研究はまだ始まったばかりといえよう。

10. ことわざ構文

ことわざは長いイディオムとも呼べ，構文の一種といえる。(36) ～ (39) はほんの一例にすぎない。

(36) 栴檀は二葉より香し
(37) たで食う虫も好きずき
(38) 羹(あつもの)に懲りてなますを吹く
(39) 枯れ木も山の賑わい

これらの表現は，「たで食う虫のようなもので」とか「枯れ木も山のなんとやらといいますから」など，一部のみを切り取ってその意味を匂わせることもできる点で次の間テキスト構文と類似している。

11. 間テキスト構文

井原西鶴の『好色一代男』の一節に，茶屋の女の描写がある。

(40) 藤色のりきん縞に，訳知り伊達なる茶じゆすの幅広はさみ結びにして，ちょい失せんさやの二布物をほのかに，のべ紙に数歯枝をみせ懸け，紙は四つ折にしどけなくつかねて，左の御手(おんて)に朱蓋のつるを引提げ，たち出るより「淋しそうなる事かな…（後略）

（現代語訳　晩春にふさわしい藤色のりきん縞を着て，通人ぶった茶孀子の幅広帯を結ばずにはさみ，挑戦紗綾の腰巻をちらつかせ，懐の鼻紙の間には安物の楊枝をはさみ，紙は四つ折りにだらしなく結び，左の手に朱塗りの蓋のある燗鍋をひっさげて座につくなり「お淋しそうですね…）（『小学館日本古典全集　井原西鶴集 (1)』p.120）

この中の「左の御手に」の解説として，以下がある。

謡曲「忠度」の「左の御手に六弥太を取って投げのけ」の文句取り　（同 121）

これは，過去の有名な物語，テキスト，文脈の一節を取ることによってその全体を想起させる手法でいわゆるインターテキスチャリティ（間テキスト性）を示していると考えられる。このような考え方に従えば，すべてのテキストがすべてのテキストを呼び出す可能性があり，弁別可能な

最小限の語句が，このような構文を形成できる可能性を示唆している。

12. 会話フレーズ構文

口語表現には単語を超えたレベルとしてひとまとまりで機能する表現が多い。英語を例にとって，会話フレーズ構文という名前で一部を挙げてみたい。

(41) Here you are.　（はいどうぞ）
(42) I'm gonna V　（V するよ）
(43) I'd like to V　（V したいんですが）
(44) Could you please V　（V していただけませんでしょうか）
(45) Have you ever been to N_{loc}?　（$N_{場所}$ には行ったことある？）
(46) I'm afraid S　（残念ながら S です）
(47) For here or to go?　（こちらでお召し上がりですか，お持ち帰りですか）

(41) は他人にものを渡すときに使用することば，(42) ～ (44) は，それぞれ宣言，希望，依頼を述べるフレーズである。経験を問う (45)，感情を加える (46) など定型句は口語表現に満ちあふれている。また，(47) はハンバーガーショップでの典型的な表現であり，特定の状況のみで使用されるフレーズである点ではスタイル構文とも一部重なる。この場合，発音は非常に簡略化されて "Here to go?" のように発音される。日本語にも対応する表現があり括弧内の訳語は定型化されているといってよい。

13. 結論

本稿では，認知言語学の文法理論である構文文法を取り上げその射程を概説した。構文文法は文法記述として有益であるばかりか，間テキスト性やジェスチャー，ことわざといった言語の社会的側面も取り込める妥当で重要な文法理論である。第 1 節から 3 節では構文文法の全体像を述べた。第 4 節からはそのさまざまな側面を述べた。今後，構文文法の研究が盛んになることを期待したい。

主要参考文献

Croft, William. 2001. *Radical construction grammar*. Oxford: Oxford University Press.

Croft, William and D. Alan Cruse 2004. *Cognitive Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.

Fillmore, Charles. 1985. Frames and the semantics of understanding. *Quaderni di semantica* 6:222-54

Fillmore, Charles. 1988. The mechanisms of construction grammar. *Proceedings of the 14th Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*.

フィルモア，チャールズ 1989.「生成構造文法」による日本語の分析一試案．久野・柴谷編『日本語学の新展開』くろしお出版

Fillmore, Charles J., Paul Kay and Mary Kay O'Connor. 1988. Regularity and idiomaticity in grammatical constructions: the case of let alone. *Language* 64: 501-38

Goldberg, Adele. 1995. *Constructions*. Chicago: University of Chicago Press.

梶田優, 2003.〈周辺〉〈例外〉は周辺・例外か？　日本語文法学会シンポジウム講演.

Kay, P. and C. Fillmore. 1999. 'Grammatical constructions and linguistic generalizations: The What's X doing Y construction'. *Language*, 75, 1-34.

Lakoff, George. 1987.*Women, fire, and dangerous things: What categories reveal about the mind.* Chicago: University of Chicago.

Murao, H. 2009. *Cognitive Domains and Prototypes in Constructions.* Tokyo: Kuroshio.

鍋島弘治朗．2003.「「..... ひとつ ..... ない」構文について－日本語における構文文法研究の一例として－」第 4 回日本語文法学会予稿集.

Taub, S. 1996. "How productive are metaphors?: A close look at the participation of a few verbs in the STATES ARE LOCATION metaphor (and others)." In Goldberg, A ed., *Conceptual structure, discourse and language*. Stanford: CSLI publications.

[1] http://logsoku.com/thread/hobby11.2ch.net/bike/1218883962/ 最終検索日：2012/03/05

[2] http://www.tokyo-kurenaidan.com/kabuki1.htm 最終検索日：2012/03/05

[3] http://logsoku.com/thread/hobby11.2ch.net/bike/1218883962/ 最終検索日：2012/03/05